

令和4年度 学校評価総括表

奈良県立大学附属高等学校

奈良県立大学建学の精神	奈良の再発見を通して日本と世界に貢献する		総合評価
教育目標	地域社会及び国際社会で活躍する人間を育てる		
学校経営方針	自立した個人として他者や社会に貢献し、何事にも挑戦する姿勢を確立する		
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体目標	B
<p>開校に向けて以下のことを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教育の基本設計(基本理念・3つのポリシー・カリキュラム等)</li> <li>・学校説明会(6月)、学校体験会(8月)、入試説明会(10月)</li> <li>・入学者選抜検査を行い、1期生207名が入学</li> </ul> <p>構築した新たな高校教育モデルを実質化する学校運営を教職員の共通理解を得ながら、いかに進めるかが課題となる。</p>	<p>本年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開校間もない本校が、未来永劫発展するよう、教職員と生徒が一体となって学校の礎を築くこと</li> <li>を本校教育のねらいとして位置付け、生徒たちに対しては、「学習活動」「学校行事」「部活動・生徒会活動」等のあらゆる場面で「自立」「貢献」「挑戦」の3つのキーワードを意識し、実践することを通して、変化の激しい不確実な時代をたくましく生き抜く力を身に付けるよう指導する。具体的には、</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">1.自らの意思で主体的に行動し、責任をもつ姿勢を確立すること</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">2.他者や社会への関心をもち、課題解決のために自らの能力を発揮する姿勢を確立すること</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">3.失敗を恐れず、新たなことや困難な課題に果敢に挑戦する姿勢を確立すること</div> <p>を自らの目標として設定させる。 また、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">4.「学び続ける教員」としての自覚と実践</div> <p>をキーワードに据え、教えることと並行し学ぶことの専門家であることを自覚し、実践することで、生徒に学ぶ喜びを伝えられるよう研修を充実させ、積極的に参加するよう努める。また、生徒の主体的・協働的な学びをさらに充実させ、全ての授業において反転学習を導入し、平素の授業では情報端末を効果的に使用しながら、アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業を積極的に導入するよう努める。また、観点別評価を積極的に行う。</p> <p>次に、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">5.本校の教育活動の様子を積極的に発信し、その魅力を広く伝えることに努める</div> <p>こととし、各重点目標に関して、右記の具体的目標を掲げる。 なお、その成果については、各種アンケートの結果などを判断指標として用い、達成度・満足度などを把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「生徒会」を発足させ、「部活動」を作り上げるプロセスを生徒に経験させ、生徒が気力・体力・知力の充実した主体的な活動を送れるよう場と機会を提供する。</li> <li>②生徒が受動から主体となるよう授業や活動等の工夫を進め、また、そのための支援体制をつくる。</li> <li>①社会的課題への関心をもち、社会の構成者（主権者）としての素養を醸成する。</li> <li>②地域との連携を強化し、「協働」を進め、地域に「貢献」することの意義を確認できるよう、様々な体験活動を充実させる。</li> <li>①学校行事の意義を認識させ、主体的な参加姿勢を培うとともに、「挑戦」することの大切さを認識させ、問題解決能力を養うよう努める。</li> <li>②社会的自立を見通した進路選択を意識することで、学びに向かう意欲を醸成する。ライフキャリア教育等を充実させる。</li> <li>①教職員の研修体制を民間を活用するなど刷新し、充実した学びを構築する。</li> <li>①各種メディアを積極的に活用し、多角的に本校の魅力を多方面に周知する。</li> <li>②学校評議員会での評価を活性化する。</li> </ul>	

	具体的目標	具体的方策・評価指標【】の番号は重点目標-具体的目標に対応する	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
(1) 学習支援	生徒が主体となって取り組める魅力ある授業づくりを推進する。	生徒が主体となる学習を推進し、授業に集中して取り組めるよう支援する。生徒の授業アンケートにおけるアクティブ・ラーニング型授業の満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】	A	生徒が主体となった学習の趣旨や方法、達成度等について、全教員の協力により推進できた。教員の指導及び主体的な学習に関する生徒の満足度は91.6%であった。ただし、この学習形態に適合せず教員の支援にも満足できていない生徒が一定数いることがうかがわれるため、対応を検討する必要がある。 9割以上の生徒が情報機器を使いこなしている。ただし、うまく使いこなせていない生徒がいること、また、指定端末でなく個人の携帯端末を日常的に使用する生徒への対応も検討する必要がある。	・次年度の新入生においても引き続き主体的な学習を推進する指導を続けつつ、対応できない生徒からの聞き取り等を進め、対応を検討する。 ・情報機器の使用についても、同様に、次年度も推進しつつ丁寧な対応を検討する。	ICTを活用した教育を全ての教科・科目で進めており、評価できる。情報端末の使用が適切で、細やかな対応が必要である。
	各種教材・教具の適切な活用を図り、家庭学習を重視した主体的な学びを実現する。	学校での学習とともに、ICT教材の活用による家庭学習を重視させる。生徒の授業アンケートにおいて、ICTを活用した学習に主体的に取り組むことができた生徒が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】	A			
(2) 進路支援 キャリア教育	①生徒の進路第一希望の実現のために、自学自習の習慣を身に付けさせる。	放課後の自習室環境を整え、学習教材等を効果的に活用する方法を提示、資料等で啓発を行う。また、教科との連携をはかり、進路実現を見据えた学習計画を立て、自学自習の習慣を身に付けさせる。生徒アンケートで、自学自習の習慣が身に付いたが70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【3-②】	B	夏期休業中の自習室利用の啓発として、スタサブの到達度テストと関連させ、表彰を行った。冬期休業中に英語・国語・数学で実力養成講座を行った。また、模試等での、スタサブ、Classi等の学習教材の利用等、自学自習の習慣の定着を図った。光熱費の高騰による、冬期の自習室の縮小は来年度の課題である。生徒アンケートより、「自学自習の習慣が身に付いたと感じている」に対し、「そう思う」「だいたいそう思う」は68%であった。 フロムページによる夢ナビライブ説明会(6月)、ENAGEEDを用いて、ライフキャリア教育(12月)、リクルートによる進路講演会(1月)を行った。1年次、1期生ということもあり、学校行事等、決めることも多く、進路HRを思うように行うことができなかった。生徒アンケートより、「進路実現へ向けて、学校からの進路情報に満足している」に対し、「そう思う」「だいたいそう思う」は65%であった。	来年度より、使用できる教室が増えることもあり、県大塾(自習室)の整備・充実、0時間目の自習・実力養成講座、長期休業中の校内学習会、年間を通じての全統模試希望者受験の学校実施等を企画したい。また、夏期休業中にオープンキャンパスへの参加の啓発、大学見学会の実施、ライフキャリア教育の一環として、インターンシップ等への参加も充実させる。	自主的に学習できる環境を整備していることは評価できる。アンケート結果において学習習慣が身についたと考えている生徒の割合が低いことから、さらなる生徒への働きかけが必要である。
	②ライフキャリア教育を促進する。	自己実現のためホームルーム、ライフキャリア育成プログラム、各授業等を通して、自己の将来について考えさせる。学年末の生徒アンケートでキャリア教育・進路情報の満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-①】【3-②】	B			
(3) 生徒支援 生徒会活動	①基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、自律的な学校生活を目指す。	さまざまな活動の場で、「今は何の時間か。自分は何をすべきか。どのような手順がよいか。」を考えさせ、主体的・自律的に行動できる生徒を育てる。時間の意識、素直な返事・他者を思いやった言葉づかい、正しい身だしなみの指導を徹底する。生徒アンケート「時間を意識している」「身だしなみに気をつけている」と回答する生徒が70%以上でA、50%以下でC。【1-①】【3-①】	A	生徒アンケートの「時間や身だしなみについて、自律的に判断して行動している」の項目に、そう思う・だいたいそう思うを合わせると91%の回答があった。文化祭の事後アンケートではほとんどの生徒が自律的に行動できたと回答した。朝の登校時間に遅刻する生徒が減らないことが課題である。 生徒アンケートの「本校の学校行事や生徒会活動は、充実している」の項目に、そう思う・だいたいそう思うを合わせると85%の回答があった。生徒会が主体となる活動をより充実させていくことが課題である。	・日常生活や課外活動、行事のたびに意識高揚を促す。 ・生活委員などの生徒の声によって、具体的に生活習慣の注意すべきポイントを呼びかける。 ・アンケート等を利用して、生徒の意見を生徒会活動に反映させる。	生徒の自主性を大切に取組まれていることは評価できる。遅刻生徒に対する対応や、生徒会の活動のあり方に関する課題については、さらなる取組みが求められる。
	生徒会活動の活性化を図り、部活動や学校行事へ主体的に参加させる。	生徒会が中心となり、生徒が積極的に部活動や学校行事に参加できる取組の企画を促す。学年末の生徒アンケートで、学校行事の満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-①】【2-②】【3-①】	A			
(4) 人権教育 特別支援 教育相談	①生徒一人ひとりが自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識を高め、人権を尊重する主体的な態度を育てる。	生徒一人ひとりの人権意識を高めるため、「人権だより」の発行を行う(年3回)。いじめを生まない、ゆるさない環境作りを積極的に進める生徒を育てるため、生徒によるいじめ防止活動を行う。人権教育HRで生徒の身近なテーマを取り上げ、人権尊重の意識を育てる。生徒アンケートで「人権意識が高まった」「自分・他者の人権を大切にしようと思う」と回答する生徒が70パーセント以上でA、50%以下でC。【1-②】	B	人権だよりの発行を年2回行った。人権委員会が主体となって、「いじめ防止活動」に関する標語募集を行った。生徒アンケートで「自分・他者の人権を大切にしよう」と発言・行動しなければいけないと思うの項目に、そう思う・だいたいそう思うを合わせると97%の回答があった。 スクールカウンセラーや外部機関と連携し、生徒の実態・状況把握に努め、情報を職員で共有した。必要に応じて特別支援教育委員会やケース会議で生徒への支援の方向性を検討し、体制を整えた。職員研修は4月と9月の2回実施した。	・人権委員の生徒を中心に、いじめ防止活動を展開していくようサポートする。 ・生活委員などの生徒の声によって、具体的に生活習慣の注意すべきポイントを呼びかける。 ・人権教育LHRの内容を充実させ人権意識を高める。 ・職員研修を実施し、人権教育に役立つ。 ・関係職員やスクールカウンセラー、必要な場合には外部機関と緊密な連携をとる。 ・後期にも生徒の情報を共有する職員研修を実施する。	教育相談や特別支援教育に関する体制を整えたことは評価できる。生徒が主体となる人権教育の推進を図ることも必要である。
	②教育相談や特別支援教育の体系化を図り、学校全体の共通認識のもとに個々に応じた対応を行う。	スクールカウンセラーとの連携や特別支援教育推進計画に基づき、配慮を要する生徒を把握し、教職員全員で情報を共有し、共通理解の下に対応する。また、特別支援が必要な生徒には、個別の指導計画を作成する。必要に応じて職員研修を開き、情報を全教職員に共有する機会を3回以上持つことができればA、2回でB、1回以下でC。【4-①】	B			
(5) 文化図書教育	読書の習慣を身に付け、豊かな感性と幅広く深い教養を育む。	読書の楽しさや意義を実感し、生涯にわたって図書館や読書を自分の人生に生かすことのできる態度を育成する。年度末アンケートで学校図書館と読書についての満足度が70%以上でA、50%以下でC。【2-①】	A	西の京高校図書館にお世話をいただき、学校図書館オリエンテーション、日常的な図書の出し入れ等を行うことができた。ただ、生徒の満足度は73.1%に止まっている。次年度に向けて、データ引き継ぎ、図書館の運営体制(専属司書の設置、図書委員会の運営)、スペースや蔵書の質及び量の確保など、課題探究の本格化を見据えて課題が残る。 文化行事を3回(創立記念行事、大学附属図書館オリエンテーション、新春かるた大会)実施し、全校生徒参加の下、その都度振り返り等を実施して効果的な実施を図ることができた。	専属の学校司書を置き、また、教員の担当者も置いて図書委員会を活用することで、今年度以上の運用を図ることができるようにする。 文化行事を次年度も実施するとともに、その効果について、新たに導入予定の評価ソフトの結果などにより分析・検証を図る。	次年度からの附属高校単独での図書館運営について、探究活動を中心とする教育活動に沿った体制づくりを進める必要がある。
	文化活動を充実し、生徒の想像力・創造力の育成を目指す。	文化行事をとおして想像力・創造力を育て、社会の一員として必要な文化的素養や教養を育成する。学校全体の取組として、年間4回以上の文化的行事を実施してA、2回以下でC。【2-②、3-①】	B			
(6) 環境整備	生徒が自ら校内を美化する姿勢を養う。	日々の校内清掃活動をおとして、生徒の美化意識を高める。学年末の生徒アンケート(校内美化)で、校内を美化する意識が身に付いたが70%以上でA、50%以下でC。【1-①】	A	生徒アンケートの「日々の校内清掃をおとして、校内を美化する意識が身に付いた」の項目に、そう思う・だいたいそう思うを合わせると80%の回答があった。清掃活動以外にも美化意識を高める取り組みを考えていく必要がある。 校内大掃除活動を年間9回実施した。今後も定期的に大掃除を実施していくとともに、清掃が行き届いていない箇所の清掃を進める。	・環境委員が中心となり、生徒の美化意識を高める活動を企画する。 ・2学年になることを踏まえて、清掃箇所の再検討を行う。	全生徒、教員が協力して、一層の校内美化に取り組む必要がある。
	大掃除等を行い、校内美化を図る。	環境委員会を中心とした活動を活性化させ、校内大掃除活動を定期的に行う。大掃除活動を年間10回以上でA、5回以下でC。【1-①】【2-②】	B			

	具体的目標	具体的方策・評価指標 【】の番号は重点目標-具体的目標に対応する	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
(7) 健康安全 食育・防災 教育	①生徒が学校生活に専念できるよう健康な生活を送るための生活習慣を確立する。	各種面談、健康調査票や学校保健委員会、定期検診やその事前・事後指導を通して生徒の身体状況、健康状態の共通理解を図る。保健だより、食育だよりをそれぞれ年3回以上発行した場合A、1回以下でC。【1-②】	B	保健だより、食育だよりも年に2回の発行であった。検診などの生徒への事前・事後指導を行い、職員との共通理解を行った。保健室との連携を密にするとともに、日常生活における生徒の状況を理解していく必要がある。	・保健委員、家庭クラブなどと連携を取り、活動の活性化を図る。 ・具体の避難を想定した多角的な訓練を企画する。 ・月末大掃除と結びつけて、危険箇所の洗い出しと安全点検を行うとともに、計画的に全館の安全点検を行う。	引き続き、食育・学校保健について、関係機関と連携して取り組む必要がある。防災教育に関してはより一層充実した取り組みが求められる。
	②火災、震災等に備える取り組みを通して、自らの身を守る行動の習得と防災に対する意識を高める。	火災、震災に備えて、避難訓練およびシェイクアウト訓練を実施する。安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。安全点検を年間6回以上行った場合A、2回以下でC。【2-①】	B	4月に避難訓練、7月にシェイクアウト訓練を実施した。大掃除時に安全点検を実施した(5回)。西の京高校と相乗りの状態であったため、本校が使用しているエリアにおいて、修繕の必要な箇所を都度指摘し補修するという流れになっていたが、全館本校が使用する次年度は、計画的・総合的な取り組みにするべきである。		
(8) 広報	① 中学校・塾等への広報活動を積極的に行う。	生徒主体で本校を紹介するリーフレットを作成し、説明会、県内の施設等で配付する。また、学校説明会を生徒に主体的に運営させる。学校および各施設での説明会実施回数が15回以上でA、5回以下でC。【1-②】【5-①】	A	リーフレット、生徒募集要項において、生徒の意見・作品を取り入れ作成し、中学校、教育関係機関に配布した。特にリーフレットにおいては、3000部作成したが、ほぼ在庫がない状態である。また、入試説明会等において、生徒主体で運営し、好評であった。説明会等は年間17回行った。さらに広報部生徒がInstagramを開設し、本校の情報発信に寄与してくれた。	・多くの生徒を巻き込み、本校の紹介活動ができた。来年度は出身中学校に出向き、多くの中学生に学校紹介を行うことができるよう計画したい。 ・私立高校が発行しているような、多ページにわたる学校紹介パンフレットの作成を行いたい。 ・本年度に開設したInstagramを充実させ、多角的な広報活動を行いたい。	生徒が主体となる学校広報活動は、たいへんめずらしく、今後も精力的に取り組む必要がある。
	② 学校体験会を実施し、特徴的な本校教育を中学生・保護者に知ってもらう。	夏期休業中に学校体験会を行う。できるだけ多くの教科の体験を提供し、本校への入学希望者を増やす。参加者へのアンケートで、体験会に満足したと答えた割合が全体の80%以上でA、60%以下でC。【5-①】【5-②】	A	300組以上の中学生・保護者を迎え、学校体験会を2日間の日程で行うことができた。普段授業で行っている教科全てを提供し、中学生の希望により、体験授業を受けてもらった。中学生、保護者ともに、満足度は90%を越えていた。		
(9) 学校運営	① 「学び続ける教員」としての自覚と実践を促すための研修を推進する。	教職員が教育研究所等の研修会や教科等の研究会に積極的に参加し、その研修の成果を教職員間で共有できる状況をつくる。訪問研修の実施、研修への参加人数が、10名以上でA、7名以下でC。【4-①】	B	開校に当たり、評価方法の共通理解を深めるため、学務部主催で評価についての研修を行うことができた。ほとんどの教科・科目において、教育課程研究会や学習指導研究会に参加したが、参加できていない教科・科目があった。また、研修内容の共有ができていない。	・開校1年目で、一人しかいない教科・科目があるため、お互いの授業見学や研修ができなかった。次年度以降は複数教員の教科・科目が増えるため、指導方法についての研修を深めたい。	志望者数を大幅に増やしたことは、県内唯一の探究科単科高校として認知されたものと思われる。今後も探究活動に関心のある生徒が志望する学校を目指す必要がある。
	② 受検者を増加させ、安定的かつ質の高い生徒の確保を図る。	教職員が働きやすい環境を提供し、本校を誇りに思えるような学校運営を行う。その上で、全教職員が一致団結し、受検者増に努める。前年度の受検者数より増加していればA、減少でC。【5-①】	A	本校主催で入試説明会、入試相談会を開催し、また、県内各教育機関主催の学校説明会に参加し、本校の教育の特徴を県民に理解いただくため、積極的に情報提供した。その結果、受検者数が昨年より約100名増加した。	・さらなる探究的な学びに興味を持つ中学生獲得に向けて、説明会等工夫をして行いたい。	
(10) 研究開発	探究的な学習をとおして社会の課題に関心をもちさせる教育課程を編成する。	探究的な学習を核とした教育課程を編成し、その円滑な実施に向けて各種のサポートを行う。課題探究の学習に対する生徒の満足度が70%以上でA、50%以下でC。【2-①】	A	成績についての内規を検討しつつ、年間をとおしておおむね当初計画のとおりに教育課程を実施することができた。探究的な学習への満足度は83.2%であった。次年度に向けて、教科間の連携による授業改善等の機会を作るなどして、一層の改善を目指したい。	各種規定を整備するとともに、教科間連携を含めた研修機会の充実を図りたい。	探究的な学習がさらに進むよう、全教員で連携を密にして取り組む必要がある。
(11) 1学年	探究科としての取り組みやアントレプレナーシップ(起業家精神)をどのような方法で、育成するか課題化し考え具体化することを目指す。	中期ビジョン(半年から1年)、長期ビジョン(1年から3年)の具体的な実践目標を立て、目標に向かい自らの意思で主体的に行動し、1期生として後輩に範を示す姿勢を確立する。生徒に対する学校生活に関するアンケートにおいて、満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-①】【2-②】【3-①】	A	生徒アンケートの「本校の学校行事や生徒会活動は充実している」の回答の「そう思う」「だいたいそう思う」は合わせて85.4パーセントであった。多くの生徒が主体的に部活動や委員会活動に参加し、学校づくりの一員としての責任感と達成感を持っている。	学校生活に充実感をもつ生徒と、思ったように仲間づくりや学習活動、学校生活がうまくいかず気持ちの低下が体調不良として出現する生徒がいられたため、不安感を払拭できる学年での取り組みを考えていきたい。	引き続き多様な生徒に対しきめ細やかな対応が求められる。
国語	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	A	授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて84.3%であった。Teams上での課題提出により、作文等の記述式課題や言語活動等の記録の即時的な精緻な把握ができるようになった。紙媒体に比して提出率が上がりにくいことが、今後の課題である。	・Teamsのみによる実施では課題の期日などが周知されにくいので、掲示物やClassiも併用する。 ・言語文化で年間100個のファイルを共有したが授業の復習用となっていた。反転学習の効率を上げるために、内容や共有する時期の調整を図る。 ・Teamsでは提出課題の割割が容易であるため、紙媒体と組み合わせ実施する。	引き続きICT機器を活用した高度な国語教育を実践するため、不断の教材研究に努める必要がある。
	言語感覚を磨き、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。	探究学習等に必要、基礎的な国語の知識・技能とともに、国語を用いて思考し判断し表現する力を身に付け、ICT教材等を活用してこれを活用させる授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【2-①】	A	授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて83.8%であった。ワイドを利用した文章を構造的に分析する作業を取り入れたりと、板書やプリント配布をTeamsでのファイル共有に置き換えたことは非常に有効であった。電子的な共同編集作業や課題提出が今後の課題である。		
地歴	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	B	年間通し授業の方法をいくつか考え、組み合わせた。①講義の部分は定期テストで②知識の部分は小テストで③思考や主体性はteamsで配信した課題を評価することで、前後期それぞれバランスのとれた評価ができた。評価のパターンを生徒に徹底させるという意味ではシラバスやルーブリックを徹底できなかったため、次年度は先に評価までの道標を示すことが課題である。授業アンケートでの観点別学習状況評価は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて58.5%であった。	地理学の内容は知識面でも技術面でも日々変化や進歩があり、それをどのように生徒たちに具体的に考えさせて身につけるかが課題である。年間計画をしっかりと立て、さらに具体的な進捗状況に合わせてメリハリのある学習活動を目指す。	普段の授業において外部講師を活用していることは評価できる。今後は、授業評価を高める工夫を、一層進めることが求められる。
	地理的な見方・考え方を身につけ課題を追求する活動を通して、広い視野に立ち国際社会に主体的にいける資質・能力を育成する	基本的な地理的知識を身につけた上で、事象を分析、理解する学習活動を行う。高大連携を見据えた実地実践的な取り組みを行い、視野を広げ探究的な考察力を身につける授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-①】	B	「地図化できるものは地理学である」という考えを年間通してテーマとし、授業内容に取り入れた。前期では奈良大学の出張授業を利用してGISの学習活動をおこなった。11月の文化祭では防災の授業で各自撮影した写真を使ってグループを組み地図ソフトを活用した地図作りをおこなった。教える方がGISの最新の知識や技能を持ち合わせず、手間取った。もう少し時間をしほり、Smartに授業展開することが課題である。授業アンケートでの授業方法に関する評価は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて58.2%であった。		

	具体的目標	具体的方策・評価指標 【】の番号は重点目標-具体目標に対応する	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
公民	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	B	授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度は「とてもそう思う」「そう思う」をあわせて88.2%であった。これには学習内容を反映した小テストや課題を設定し、繰り返しそのテーマに触れることで理解を深めさせることができてきたことが影響していると考えている。講義形式の授業で理解を深める生徒がいる一方で、なかなか内容をイメージすることが難しい生徒もいるので、グループワークも活用しながら、生徒それぞれのペースで考えることができ、深い理解につながったと考えている。	ただ意見をぶつけ合うのではなく、論理的に思考し、意見を交わすことができることがこの科目を一つの目標である。しかし、実際にはこれに至るまでに講義形式の授業を長時間行い、一定の知識レベルまで理解を深めさせる必要があり、この点に改善の余地があると感じている。日々の小テストの配信や資料の配布などいくつかの方法が考えられるので、より良く生徒の理解が深まるように工夫をしたい。	授業において、様々な工夫がなされていることから、授業方法に関する満足度が高まったと考えられる。次年度も実社会と繋がる授業展開が求められる。
	主権者としての知識や心構えを理解し、答えのない課題に対し、最適解を提示できる論理的思考力を育成する	基本的な社会の諸制度や課題、文化、歴史などを理解し、社会の諸問題に対し、様々な角度から考察を行い、それらの課題に対する最適解を論理的に導きだせるよう、探究的な活動を伴う授業を展開する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【2-①】	A	授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」をあわせて95.6%であった。ディベートに、答えのない問いに答えを導くという作業を通して、知識を活用するという経験ができたことが良かった。ディベートを実施するには準備に非常に多くの時間を要するが、この経験が、知識を使って考えを論述する力の育成にもつながっているようで、考査問題での論述系の問題への解答にもいい影響を与えているのではないかと考えている。		
数学	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	A	単元テストを実施し、理解度が低い生徒に対しては放課後補習を行った。その際、数学が得意な生徒たちにボランティアを依頼し、少人数のグループで個別対応できるようにした。また、考査や授業内で行ったプリントについては、どの観点の評価にいいのか明確にし、クラス間で互いのずれもないように行った。授業アンケートでの観点別学習状況評価は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて78%であった。	数学が苦手な生徒に対して、継続して丁寧な対応を心掛け、基礎学力向上を目指す。また、2年次からはそれぞれの進路にあった授業内容や放課後の取り組みを進める。生徒たちの興味関心につながる授業の展開と教材の工夫がより重要となるので、教員間で分担、連携して行っていく。	数学においても探究的な学びを取り入れられていることは評価できる。数学を苦手としている生徒に対するいいケアを行うことが求められる。
	数学的な見方や考え方を認識し、数学の美しさ・おもしろさを感じられる生徒の育成	身の回りの現象を数学的に捉えた題材を取り入れるなど、興味・関心をもたせる授業を行う。また、ICT機器を活用して、それらの現象を体験し、協働で問題解決を行う課題探究型の授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-②】	B	単元ごとに課題学習をグループワークで行った。生徒の興味関心につながるような身の回りの現象と関連した題材や難易度の設定については、工夫がさらに必要に感じる。グループワークについては、多くの生徒たちが各班で協力して学習に取り組んだ。授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて83.5%であった。		
化学	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	B	考査点が欠点の生徒を対象に、長期休業中(夏期・冬期)に補習を行い、幅広い学力層への補充授業に取り組んだ。その結果、授業理解、提出物等、授業改善できた生徒も多かった。授業アンケートでの観点別学習状況評価は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて60%であった。	幅広い学力層、文系向きの生徒も多く、高度な内容時の授業の進め方が難しかった。毎時間、プリント提出、またClassiを利用して解説を配信するようにしている。放課後の補習、反転学習の啓発で改善を心がけている。2年次の「化学」では、実力養成講座を継続的にを行い、上位層を向上させたい。	化学が苦手な生徒に対し補習等で補っていることは評価できる。次年度はこれらの生徒に対する対策とともに、化学が得意な生徒への対応が求められる。
	生活に関連する化学的知識を基に科学的に思考できる能力を育成する	身の回りの現象を化学的に捉えた題材を取り入れる。実験を通して、興味・関心をもたせる授業を行う。ICT機器を活用して、それらの現象を体験し、協働で問題解決を行う課題探究型の授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-②】	A	年間7～8回の化学実験を行い、実験を通して、興味・関心をもたせるように取り組んだ。その結果、実験を楽しみしているという生徒の意見も聞けた。授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて75%であった。		
生物	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	B	単元ごと小テストや実験等でのレポート作成、クラス内での発表活動を実施した。考査や提出物では観点別評価を明示したが、評価の規準をより分かりやすく生徒に伝えていく必要があると感じる。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度は「とてもそう思う」と「そう思う」合わせて85%であった。	・より分かりやすく評価に適したルーブリックの作成を進める。 ・科目での授業アンケートの実施回数を増やし、授業改善に活かす。 ・生徒の意見や発表内容を授業にフィードバックできるような授業を構築する。	授業方法についての満足度が非常に高く、普段の授業において工夫されていることがうかがわれる。今後は評価に関する研究が求められる。
	科学的思考力・表現力を育成する	観察実験を通して、興味・関心を引き出す授業を行う。ICT機器を活用し、協働で問題解決を行う課題探究型の授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-②】	A	すべての授業で電子黒板を用い、各単元で生徒用PCを用いた課題探究的内容を数回実施した。この1年間で課題探究型の授業の形をつくることはできたが、より生徒の意見を取り入れつつブラッシュアップしていく必要がある。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」と「そう思う」合わせて90%以上であった。		
英語	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	A	教科書だけでなく、各種模試対策や検定対策に至るまで、授業の中で幅広い指導を行うとともに、スタディサプリやオンライン英会話を活用して個に応じた指導を実施した。補習や講習も実施し、できる限りのフォローを行った。考査点や提出物については、どの観点の評価になるかを明確にして、各クラスで評価方法のずれがないように実施した。授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度は「とてもそう思う」「そう思う」をあわせて85.3%であった。	・引き続きオンラインを活用して、個に応じた指導改善に努める。 ・英語力だけでなく、英語を使用した、コミュニケーション力の向上にも努める。 ・英語という言語の学習のみならず、幅広い知識を獲得できるように心がける。	平素の授業だけでなく、検定への対策を行っていることは評価できる。授業への満足度が高く、様々な対策と授業の工夫が見られ、これらを継続して実施することが求められる。
	国際的な視野をもって探究活動へ応用できるようにする。相手の伝えたいことを的確に理解し、自分の思いを適切に伝える英語運用能力を育成する	英語という特性を活用して、社会問題や時事問題等、様々な分野の題材を取り入れる。言語使用を通して、興味・関心をもたせる授業を行う。ICT機器を活用して、それらの現象を体験し、協働で問題解決を行う課題探究型の授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-②】	A	後期からオンライン英会話を6回実施して、英語力とコミュニケーション力の向上に努めた。また、ペアワークやグループワーク等の活動やプレゼンテーションを実施することで、生徒同士の協働の場を提供して、相互の能力向上を期待した。英語のニュースサイトを多用して、英語力の向上だけではなく、様々な知識を得られるように紹介している。授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」をあわせて91.8%であった。		

	具体的目標	具体的方策・評価指標 【】の番号は重点目標－具体的目標に対応する	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
保健体育	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	B	<p>日々の課題や事前学習を通して、興味関心を持たせるとともに、実生活に生かすことのできる内容を実施した。また、毎回課題や成果を提出させることで、明確な評価に努めた。授業アンケートでの授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」をあわせて保健が89%、体育が87.3%であった。</p> <p>ICT機器の活用を行い、瞬時にテスト課題を確認したり、カメラなどを使用した動作確認などを行った。また、グループでの活動を増やすことで相互理解を深めることができたと感じる。授業アンケートにおける授業方法に関する満足度では、「そう思う」と「とてもそう思う」合わせて、保健・体育ともに90%以上であった。</p>	<p>個別の評価の明確化を行いながら実施していく必要がある。実技の未実施の生徒や、課題未提出の生徒に対してのきめ細やかな対応を行なっていく。</p> <p>より生徒が主体的に行動できる手立てを構築していく。</p>	<p>体育の授業においてもICT機器を活用し、生徒の授業方法に関する満足度が非常に高い。今後は評価に関する研究が求められる。</p>
	生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、ICT機器の活用や、課題探求型の授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-②】	A			
情報	より良い評価方法(観点別学習状況評価)の確立	観点別学習状況評価について研究・実践し、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かい指導を目指す。生徒の授業アンケートでの観点別学習状況評価に関する理解度が70%以上でA、50%以下でC。【4-①】	A	<p>プログラミングではscratchのスタジオ機能を使い、各クラス毎回の授業ごとにプログラムを提出させ評価へつなげた。また授業の最後にteamsで振り返りを行い提出させた。プログラミング以外の内容では小テスト、life is tech レッスン、life is tech の理解度チェックワークを用いて評価をした。授業アンケートによる観点別学習状況に関する理解度は「とてもそう思う」「そう思う」合わせて96.7%であった。</p> <p>プログラミングの導入としてscratchとmicrobitの授業を行った。グループワークで授業を行い、ひとつひとつプログラムの説明を丁寧にしなが授業を展開し、理解を深める工夫をしたこともあり、生徒の満足度は高かった。授業アンケートによる授業方法に関する満足度は「とてもそう思う」「そう思う」合わせて97.7%であった。</p>	<p>実技(プログラミング)の未実施者に対してのきめ細やかな対応を行なっていく必要がある。Scratchやmicrobitの授業ではログインIDやパスワードを忘れて、ログインできないという生徒がどのクラスでもほぼ毎回おり、授業の開始後5分間程度がその対応をする時間となってしまう。ID、パスワードの管理をうまく指導してゆく必要がある。</p>	<p>新課程の特徴的な科目である情報に対し、生徒が主体的に取り組み、満足度も非常に高い。プログラミングに対する、きめ細やかな指導が求められる。</p>
	現代社会における情報の重要さを理解し、プログラミング等の情報技術を問題解決につなげる思考力を育成する。	ICT機器を積極的に活用し、興味関心を持たせる授業を展開する。複数のプログラミング教材を協同で使い、トライ&エラーを繰り返しプログラミングを活用しての問題解決を学ぶ授業を実践する。生徒の授業アンケートでの授業方法に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【1-②】【2-①】	A			
課題探究	探究科の中核となる「課題探究」の全体像を踏まえた授業の実現	生徒が自らの在り方生き方を考えながら、主体的に課題設定する力を育成するための授業を計画・実施し、生徒の学びを支援する。課題探究に関する研修を年10回以上行うでA、5回以下でC。【1-②】	B	<p>県内初の取組を全教員が協働で進めるため、テキストを基に用語や概念の統一を図り、2年間の全体イメージを提示して実施した。ただ、合同での研修を設定できず、資料による研修を個々に10回程度実施したが、十分とは言えず、先生方の力量に依存した部分が大い。</p> <p>課題探究Ⅰの取組を、当初予定の年間計画に基づいて推進することができた。生徒アンケートでは探究的な学習に満足しているかについて「そう思う」「ややそう思う」を合わせて83.2%であった。ただ、十分な人数を指導にあてることができず、行き届かない面もある。</p>	<p>次年度には、より早期に計画を策定し、個別の説明だけでなく全体研修や交流機会等の日程確保を図る。</p> <p>担当者を増やして学習内容についての分析振り返りをより多角的に行うことができるようにする。</p>	<p>本校の特徴的な「課題探究」の授業は、県内外から注目されている。引き続き、生徒が主体となって探究活動できるよう、大学教員も含め全教職員で取り組む必要がある。</p>
	各教科や課外での学習成果を踏まえた幅広い視野をもち、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する課題を見付ける力を育成する。	学校外での活動を踏まえた長期休業中の計画の立案、実施と振り返りや、校外での研修、ICTを活用した探究への取組を積極的に実践する。生徒の授業アンケートでの課題探究の授業内容に関する満足度が70%以上でA、50%以下でC。【2-①】	A			